

# ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒の育成

～問題解決的な学習過程を取り入れた道徳の時間を通して～

## ○研究の概要

全国学力・学習状況調査などから、中学生の自分への自信の欠如が見られる。自己肯定感や自尊感情といった感情は、自分の人生を前向きに捉え、日々の学習や生活に意欲をもつために欠かせないものである。本研究では、学校での諸活動における道徳教育の要として、それらを補充・深化・統合する役目を果たす道徳の時間の指導の工夫を通して、自分のよさを生かし、自分なりに努力しようとすることができる生徒を育成したいと考えた。その際、多様に心が動く道徳の授業を目指し、表現し考えを深めるための手立てを工夫とともに、問題解決的な学習過程を取り入れた道徳の授業を展開していく。自己との関わりの中で問題を主体的に捉え、資料や他者との交流を通して協同的、能動的にねらいとする価値を追求することで、ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒の育成を目指していく。

【キーワード】 問題解決的な学習 補充・深化・統合 表現し考えを深める指導

## I 主題設定の理由

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代と言われている。また、アイデアなどの知識や人材をめぐる国際競争が加速する一方、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性が求められている。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。このような中、OECDのPISA調査など各種の調査からは、中学生について、「自分への自信の欠如や将来への不安」といった課題が見られている。

表1にあるのは、全国学力・学習状況調査の質問紙調査において毎年行われている、自己肯定感に関する調査結果(H27 沼田市)である。

表1 「自分には、よいところがあると思いますか」

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
小学校	40.1%	40.1%	13.5%	6.3%
中学校	29.3%	41.5%	21.2%	7.9%

これによると、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた子どもは小学校で80.2%、中学校で70.8%。反対に「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」とこたえた子どもは小学校19.8%、中学校29.1%で、小学6年生よりも中学3年生の段階の方が、自分を低く評価する生徒が増えていることがわかる。学齢があがるにつれ自分に否定的な傾向が現れ、中学校で約3割の生徒が自分に否定的な感情をもっている事実は懸念すべき状況であるといえる。

また、「第10次沼田市教育水準向上研究」においても、「心豊かでたくましく自ら学び自ら考える子どもの育成」をその研究主題とし、「道徳の時間」や「自己肯定感を高める授業」は学校教育の重点となっている。

次ページ図1のグラフは、1学期に学校生活における意欲や適応度についてまとめたものである。学校生活における意欲や適応度が高い生徒は多那中44%、白沢中34%、薄根中48%であり、各校とも半数以上の生徒が十分に意欲をもって学校生活を送っていない現状が見られる。そのため、研究員所属の3校においては、各教科の学習や学校行事、部活動などにおいて、自分への自信のなさや最後まで粘り強く努力できない生徒の存在が目立つ傾向がある。各校においては、特色ある教育活動を用意し、目的意識をもって取り組む機会を設けている。しかし、思い通りにいかないことが

あると簡単にあきらめたり自信を失いかけたりする生徒が多く、自分の思いや考えを大切にできなかったり、自分なりの目標に対してねばり強く誇りをもって取り組めない状況が生じている。

そこで、この状況を改善するためには、生徒たちが自尊感情を高め、自分の人生を前向きに捉えられることが必要であると考えた。そのためには、何より

もまず、道徳の授業改善に取り組むことが必要であると考えた。そして、豊かな体験に基づく道徳的行為や道徳上の事柄を生かし、ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒の育成を目指すこととした。

道徳については、平成 26 年 10 月に中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」の中で、「特別の教科 道徳」として位置づける方針が示され、道徳に係る教育課程の改善方策が数多く打ち出された。この答申の中で、「道徳教育の実態は、（中略）道徳教育の要である道徳の時間において、その特質を生かした授業が行われていない場合があることや、発達の段階が上がるにつれ、授業に対する児童生徒の受け止めがよくない状況にあること、学校や教員によって指導の格差が大きいことなど多くの課題が指摘されており、全体としては、いまだ不十分な状況にある」と指摘されている。

この指摘の通り、道徳の授業は、学校における道徳教育の要の時間として行われてきたものであるが、体験活動を生かすことや表現し考えを深める指導など、未だ充実した指導に至っていない現状がある。したがって、これまでの道徳の授業を振り返り、今まで取り組めていなかったことや改善すべき点を明らかにし、道徳の授業に取り組んでいくことは、「特別の教科 道徳」の目標や内容が示された今、大変重要なことと考えられる。そこで、道徳的価値に照らして自己を見つめ、多様に心が動く道徳の授業を目指し、体験や資料をもとに自分の考えを書いたり討論したりするなどの言語活動や問題解決的な学習過程を工夫することとした。

以上のことから、道徳の時間に問題解決的な指導過程を取り入れ、話し合い活動や考えを書く活動を工夫することで、道徳的価値の自覚、他者との意見交流の深まり、自分の考えを大切にする心情の高まりを促し、「ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒の育成」につなげていきたいと考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい（研究目標）

道徳の時間において、ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒を育成するために、問題解決的な学習過程を取り入れた指導の有効性を実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し（研究仮説）

道徳の時間において、表現し考えを深める指導を工夫し、問題解決的な学習過程を取り入れた指導を展開することによって、道徳的価値についての興味や関心を深め、他者との意見交流を深めるとともに自分の考えを大切にする心情を培うことによって、ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒を育成することができるであろう。

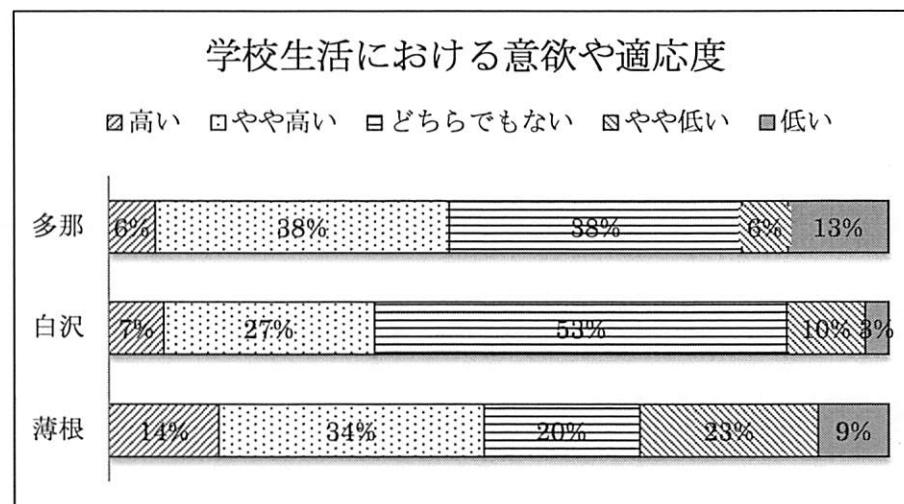


図 1 Hyper-QU（図書文化社）による調査結果

## IV 研究の内容

### (1) 基本的な考え方

#### ①目指す生徒像

「ありのままの自分を認めア、自分らしく努力しようとするイ生徒の育成」

↑↑↑↑↑↑

**生徒の実態**

- ・日々の学習や学校生活への意欲の低い生徒の存在
- ・自分への自信のなさや最後まで粘り強く努力できない生徒の存在
- ・簡単にあきらめたり自信を失ったりする生徒の存在

ア 「ありのままの自分を認め」とは、他者と自分の違いを認識し、自分の考えを大切にしている姿

イ 「自分らしく努力しようとする」とは、他者の考え方受け止めながらも、自分なりの目標に対してねばり強く誇りをもって取り組める姿

本研究では、目指す生徒像を上記のように捉え、その育成のために道徳の内容項目を以下のように絞り込んだ。

表2 本研究における道徳の重点内容項目

内容項目	目指す生徒像の育成に関わる視点
1- (2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	日常生活の目標を達成することは、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓いていく原動力となり、次のより高い目標に向かって努力する意欲を引き起こすことにつながる。この積み重ねの中で、人生の理想や目標を達成しようとする強い意志が養われ、生きることへの希望が育まれてくる。
1- (3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	自由の意味をはき違えて奔放な生活を送ったり、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されてしまったりすることがある。行為に及ぶにあたり、自分で考え自分の意志で決定したものであるとの自覚にたてば、人はそれに対して責任をもつようになる。ここに、道徳的自覚に支えられた自律的な生き方が生まれてくる。
1- (5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	自己の向上を願って生きていく上で、これまでや現在の自分、そして将来こうありたいという自分を静かに見つめ直すことが重要である。自分の人生への前向きな取り組みを繰り返すことで、生徒一人一人が個性を生かし伸ばしていくことにつながっていく。

#### ②道徳の時間の位置付け

学習指導要領では、道徳の時間について「各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する」とある。したがって、道徳教育は学校における全教育活動を通じて行われているものであるが、各教科や学校行事などで行われている道徳教育の中で取り扱う機会が十分でない内容項目に関する指導を補うこと（補充）や、生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより深める（深化）こと、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすること（統合）に留意して、道徳の時間を工夫する必要がある。そこで、道徳の時間が「補充」「深化」「統合」のいずれに当たるのかを考えて授業づくりを進める。

ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒を育成するために挙げた3つの内容項目と各教科や学校行事等の関連を意識するために、これらの内容項目に関する学習が学校の全教育活動の中でどのように行われているのか確認し、道徳の授業を構成する。

「補充の授業」・・・指導の機会が少ない内容項目や生徒の実態から重点的に指導を要する場合

「深化の授業」・・・指導の機会が多いが、生徒の実態を見たとき、その高まりが感じられない場合  
「統合の授業」・・・指導の機会はあるが、生徒の実態からそこで学んだことが相互に結びついてい  
るといえない場合

表3 道徳の時間と特別活動等との関連

1-(2) 希望・勇気・克己・強い意志	1-(3) 自主・自律・自由と責任	1-(5) 向上心・個性の伸長
入学式・新任式・始業式	生徒会専門委員会活動	校内意見発表会
卒業式	生徒総会	運動会
マラソン大会	修学旅行	職場体験学習
中体連大会	福祉体験学習	合唱コンクール
立志式	文化祭	

### ③道徳的価値の自覚を深めるために

道徳の時間における、生徒の道徳的価値の自覚を深めるために、次の3つの事柄を押さえ、授業づくりを進める。

#### ア 道徳的価値についての理解

道徳的価値を理解するために、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようとする。

- ・価値理解・・・主に資料を通してその価値の大切さを学び取らせる工夫
- ・人間理解・・・価値の大切さに対して、その実現が容易ではないことに気づかせる工夫
- ・他者理解・・・価値のとらえ方やその実現方法には、多様性があることに気づかせる工夫

#### イ 生徒自身のかかわりの中で道徳的価値を捉える

授業の導入場面、展開の後段で、自分とのかかわりで価値を捉えるための発問を取り入れる。導入場面では、道徳的価値を提示し、生徒一人一人が道徳的価値についての興味や関心を呼び起こすようにし、問題解決的な学習過程を展開する。展開の後段では、資料から離れ学んだ価値について自分自身がどうであったかを見つめる時間をとり、どのような考えのもと、どう行動していくべきかまとめる。

このたびの学習指導要領の一部改正の告示により、道徳教育の改善・充実のため、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることが示され、「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図る方針が示されている。道徳科における問題解決的な学習とは、生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳上の問題や課題を多面的・多角的に考え、主体的に判断し実行し、よりよく生きていくための資質・能力を養う

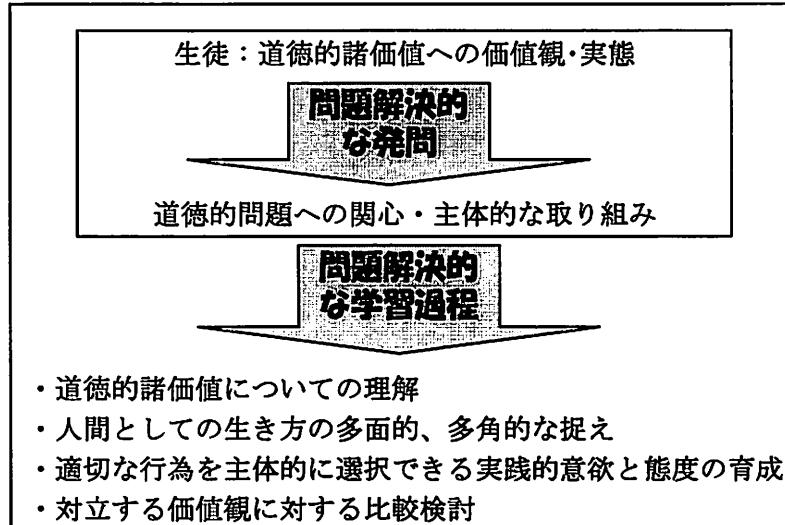


図2 問題解決的な道徳授業

学習ととらえることができる。問題解決的な学習を通して、生徒が人間としてよりよく生きていくために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、人間としての生き方について深く考え、適切な行為を主体的に選択し、行為することができる実践的意欲と態度を育むよう指導することができると考えられる。そして、日常生活での問題を道徳上の問題として把握したり、自己の生き方に関する課題に積極的に向き合い、自分の力で考え、よりよいと判断して、行為しようとする意欲を培ったりすることにつなげていく。

これらのことから、問題解決的な学習過程を取り入れることは、道徳の時間が学校における全教

育活動の補充、深化、統合を図る要の時間となり、生徒の道徳的価値の自覚を深めることにつながると考えた。

表4 道徳の授業における問題解決的な指導過程

導入 (気づく)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活における道徳的问题をつかむ           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>これまで、……だったことはないか</b> </div> </li> <li>□問題が解決できなければどうなるのか</li> <li>□より困難な場面に直面したらどうするか</li> <li>○本時の課題を把握する           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>(問題の提示)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇〇なとき、どんな思いでどう行動すればよいだろう</li> <li>・自分ならどうするだろう</li> </ul> </div> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○切実感を高める           <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果の活用</li> <li>・体験活動等の感想活用</li> </ul> </li> <li>○必然性のある問題の提示           <ul style="list-style-type: none"> <li>・状況、心情、行動の観点から具体的かつ短い文章で提示する</li> </ul> </li> </ul>
展開前段 (高める)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料を読んで、内容を把握する</li> <li>○主人公の置かれている状況を押さえ、主人公の心情を考える           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>※どのような状況で、どんなことを考え、……したのか</b>  <b>※どのような状況で……したとき、どう考えていたのか</b> </div> </li> <li>○主発問について考えを交流し、道徳的価値について考える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見から考える</li> <li>・教師の話から考える</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①話し合い活動の工夫           <ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合う形態               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア、グループ、全体討議</li> </ul> </li> <li>○生徒の思考を促す発問               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする内容項目と合致しているか</li> <li>・生徒の多様な考えを引き出せるか</li> <li>・課題は生徒にとって取り組みやすくなっているか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>②考えを書く活動の工夫           <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートの形式               <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出し、ロールレタリング、手紙</li> </ul> </li> <li>○机間指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを口頭で確認し、書かせるようにする</li> <li>・考えの理由を書き足すよう伝える</li> <li>・板書から本時の学習を振り返らせる</li> </ul> </li> <li>○意図的指名               <ul style="list-style-type: none"> <li>・多数派から少数派へと書いたことを発表させる</li> <li>・単純、抽象的な内容から複雑、具体的な内容へと発表させていく</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
展開後段 (見つめる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今までの自分を振り返り、解決策を考える           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>課題文のなとき、どんな思いでどのように行動したいですか</b> </div> </li> <li>※自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書く</li> <li>・考えを発表する</li> </ul> </li> <li>※課題について、主体的・協同的・能動的に思考し、判断し、表現し、話し合う学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意図的指名           <ul style="list-style-type: none"> <li>・多数派から少数派へと書いたことを発表させる</li> <li>・単純、抽象的な内容から複雑、具体的な内容へと発表させていく</li> </ul> </li> </ul>
終末 (振り返る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳的実践意欲をより高めるために、以下の活動を行う。           <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>※本時で話し合った内容をもとに、感想を述べる。</b>  <b>※課題に対しての結論を出す。</b> </div> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話を聞く</li> <li>・わたしたちの道徳の活用</li> </ul>

#### ウ 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う

授業の終末において、今後の生活に意欲をもたせるために、現在の自分自身の様子を客観的に振り返ったり、将来の自分の姿を思い浮かべたりする時間を設ける。その中で、自己や社会の未来に夢や希望をもち、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深めさせる。

#### ④道徳の授業における、表現し考えを深める指導

中学校学習指導要領では、その「第3章 道徳」の第3の3において、「表現し考えを深める指導」について以下のように記している。

自分の考えを基に、書いたり討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考え方に対する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるように工夫すること。

これから道徳の時間においては、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である言葉を生かし、指導の充実を図り、「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る必要がある。道徳の時間において書いたり討論したりするなどの表現する機会は、生徒が自分自身の感じ方や考えを言語化することによって、自ら考えたり見直したりすることを明確にすることにつながる。生徒が自分自身の感じ方や考えを明らかにすることは、自分の意見がどのようなことを根拠にしているのか、どんな理由によるものなのか、その拠り所を明らかにする過程でもあり、「なぜ」「どうして」と更に深く自己や他者と対話することで、自分自身を振り返り、自らの価値観を見つめ直すことになる。本研究では、問題解決のために「書いたり討論したりするなどの表現する機会」を適切に設け、自分の考えを発表したり自分の生き方を交流し合うなどの表現し考えを深める手立ての工夫を取り入れていく。

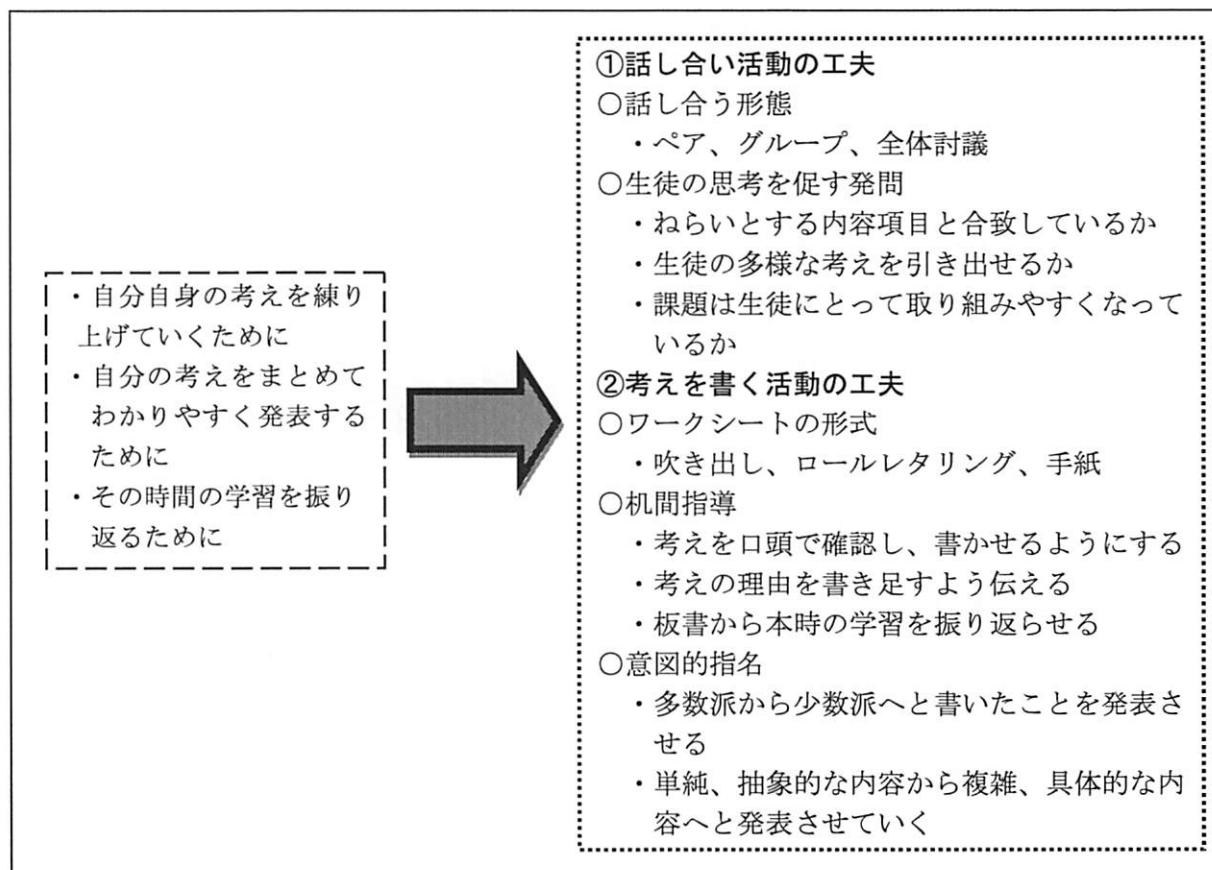
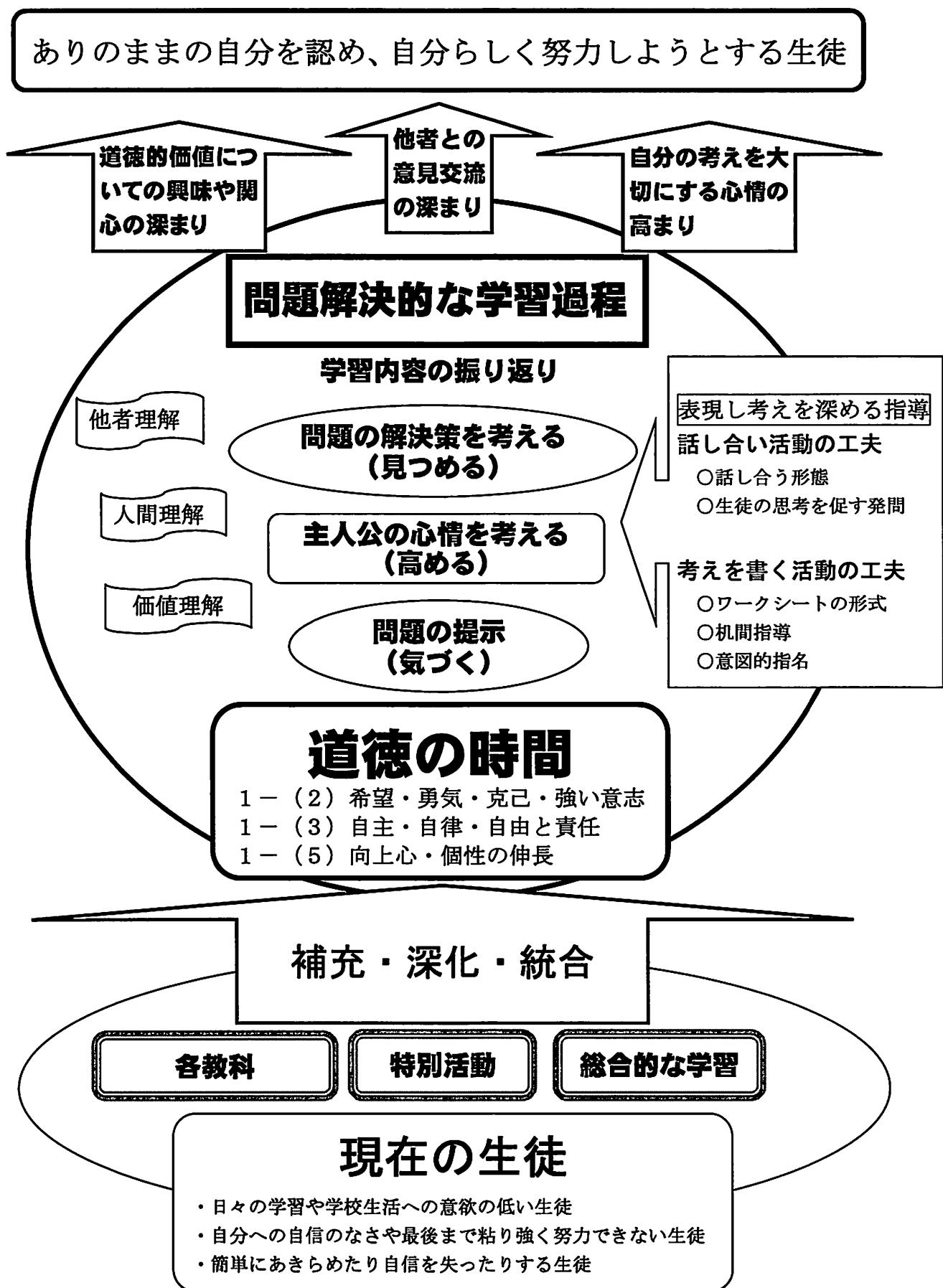


図3 表現し、考えを深める手立て

(2) 研究構想図



### (3) 検証計画

#### ① 研究実践の計画

4, 5月	生徒の実態把握 文献研究（先行事例、道徳教育、自尊感情） 研究主題、研究内容、実態調査
6月	主題検討会（16日）・・・研究の方向の確認、修正
7月	実践計画の検討
8月	第一次検討会の準備 実践準備、指導案作成
9月	第一次検討会（8日） 実践準備、指導案検討
10, 11月	指導案修正 実践授業 浅見教諭（白沢中学校）【10月20日】 実践授業 内田教諭（薄根中学校）【10月27日】 実践授業 亀井教諭（多那中学校）【11月10日】 検証・・・ワークシート、 アンケートの分析
12月	成果と課題についての検討 第二次検討会の準備
1月	第二次検討会（26日）
2月	紀要原稿作成・提出 成果発表会・終了式（23日）

#### ② 検証の観点

道徳の時間において、道徳的価値についての興味や関心を深め、他者との意見交流を深めるとともに自分の考えを大切にする心情を培うために、表現し考えを深める指導や問題解決的な学習過程を取り入れたことは、ありのままの自分を認め、自分らしく努力しようとする生徒を育成するのに有効であったか。

#### ③ 検証の方法

- ・ワークシートの記述内容の分析
- ・アンケートによる調査結果
- ・日常の教師の観察

## V 研究の実践

### 実践例1（浅見教諭：白沢中学校）

#### 1 ねらい

伊勢崎銘仙の発展に努めた下城弥一郎の生き方について話し合うことを通して、障害や困難に直面してもあきらめず、より高い目標に向かってやり抜こうとする態度を育てる。

#### 2 資料名

「伊勢崎銘仙とともに～下城弥一郎～」<内容項目 1-(2) 希望・強い意志>

#### 3 生徒の実態

本学級の生徒は、男子16人、女子15人、計31名である。白沢小学校から一緒に生徒がほとんどであり、お互いのことをよく知っており、いつも明るく元気に学校生活を送っている。しかし、小学校から同じ人間関係を維持しているため、何となくの序列関係も残っており、学年代わりなどの節目においても意欲的に学習に取り組んだり努力をしたりしようとする姿が見られない。授業中においては、意欲的に取り組める生徒もいるが、発言の声が小さいなど自分に自信をもてない生徒も多く見られる。

右の図は、Hyper-QUによるクラスの様子を表したものである。学級生活に満足している生徒がやや多く存在していることがわかるが、学級内に自分の居場所を見つからず、クラス内で認められていないと感じている生徒が9名いる。これらの生徒には、自分には能力がないと感じていたり努力することをあきらめてしまったりする様子が見られる。そのため、授業中の粘りのなさや係活動や行事への取り組みに対するムラが見られる。

本時の授業は「統合」を意図して構想する。生徒は、これまでに授業や学校の諸行事の中で自分の立てた目標を達成できるよう努力することの大切さについて学ぶ機会や意識する場面はたくさんあった。授業や一つ一つの行事では自分なりの目標を立て、それを達成できるよう努力することの大切さを学んできている。しかし、授業や諸行事で学んだことを相互に関連づけ、理想の実現や人としての生き方についての自覚にまで高めている生徒は少ない。そこで、道徳の授業において主人公の心情を読み取り、強い意志をもって努力することの大切さやどのように考えどう行動していくことが必要なのかを考えさせたい。

#### 4 資料について

この資料の主人公は、伊勢崎銘仙の発展に尽くした下城弥一郎という人物である。研究熱心だった弥一郎は、伊勢崎太織会社の社長として、いつか伊勢崎を日本一の織物の町にしたいと考えていた。その中で弥一郎は、外国との競争や規格の統一、新しい技術の開発などに取り組んでいく。しかし、仲間の協力をえるには、多くの努力と忍耐、自己犠牲が必要であった。その行動は、多くの優れた技術者を輩出し、伊勢崎を織物の町として発展させることとなった。

弥一郎が、あきらめることなく伊勢崎銘仙の発展のために尽くした行動や思いを考えることにより、粘り強く努力することや信念をもって行動することの大切さや尊さに気づかせたい。そして、より高い目標を達成するために、どのように行動していくか考えさせることのできる資料で

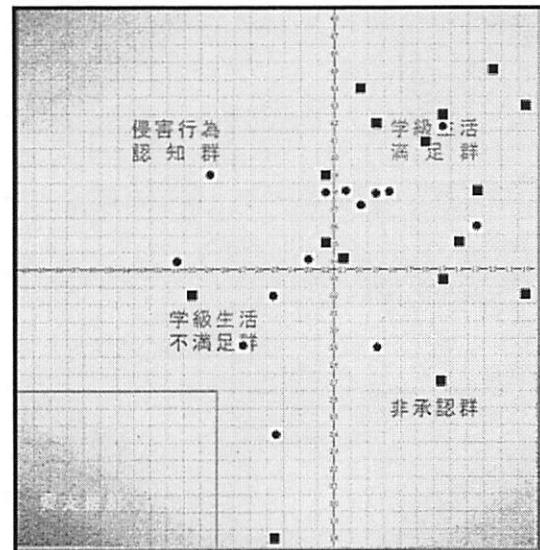


図1 学級満足度(Hyper-QU) ■男子 ●女子

ある。

## 5 道徳的価値の自覚を深める指導の工夫

### (1) 道徳的価値についての理解ために

- ・資料の読み取りをしやすくするために、資料に登場する伊勢崎銘仙、下城弥一郎を紹介できるよう具体物を用意しておく。
- ・主人公の置かれている状況を押さえ、主人公の心情を理解し、共感しながら自分の考えをまとめていくために、意図的な指名により生徒の意見をまとめていく。

### (2) 生徒自身のかかわりの中で道徳的価値を捉えるために

- ・本時の問題文を状況、心情、行動の観点から具体的に短い文章で提示する。問題解決型の学習展開とすることで、生徒一人一人が道徳的価値についての興味や関心を呼び起こせるようにする。

#### 【問題文】

より高い目標を達成するために、どのように考えどう行動していけばよいでしょうか。

- ・ワークシートへの記載や机間指導によって、生徒一人一人に自分の考えをもたせ、道徳的問題への関心を高め、主体的な取り組みを促す。その後、近くの生徒同士で意見交換させることで、本時の課題に対する考え方を深め、多面的多角的な取り組みをさせる。

- ・教師と生徒、生徒と生徒の間で意見交流をすることで、価値観を比較検討する場面を設定する。

### (3) 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うために

- ・授業の終末で、努力することややり抜くことの大切さについての体験談を紹介するとともに、「私たちの道徳」のコラムを引用することで統合を図り、目標を達成するために努力することの難しさにふれながら、その貴さが感じられるよう余韻を残して授業を終える。

- ・授業の感想を生活ノートに記入させ、一人一人の思いを授業後に振り返らせる。

## 6 本時の学習

### (1) 準備

教師・・・場面絵、伊勢崎銘仙、発問や課題を書いた図、ワークシート

生徒・・・郷土資料、わたしたちの道徳

### (2) 展開

段階	学習活動	時間	主な発問 (予想される生徒の反応)	支援及び指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"><li>○日常生活を振り返り、本時の道徳的価値について考える。</li><li>○本時の課題を把握する。 【価値の方向付け】</li></ul>	7	<ul style="list-style-type: none"><li>○これまでに、目標を達成できずに挫折してしまった経験はありませんか。<ul style="list-style-type: none"><li>・期末テストの学習時間が予定通りにできなかった。</li><li>・新人戦に向けて個人練習を計画したが、3日坊主で終わってしまった。</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の問題意識を高めるために、事前アンケートをもとに生徒の体験を提示し、生徒自身の体験が想起できるようにする。</li><li>・これから達成すべき目標や人生の目標を挙げさせ、「解決したい」という切実感と「そのためを考えなければ」という必然性を高める。</li></ul>

展開前段 (高める)	<p>○資料を読んで、内容を把握する。</p> <p>○主人公の置かれている状況を押さえ、主人公の心情を考える。</p> <p>○主発問について考え方を交流し、本時の道徳的価値について考える。</p> <p><b>【価値理解】</b></p>	17	<p>○この織物を知っていますか。</p> <p>○化学染料を使ったことで伊勢崎銘仙の評判が悪くなった時、弥一郎はどんな思いで染織法を草木染に統一したのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これ以上、粗悪品を流通させるわけにはいかない。</li> <li>・伊勢崎銘仙の伝統は自分が守るんだ。</li> </ul> <p>○仲間に理解してもらえないで借金をしてまで染織講習所の設立をあきらめなかつたのは、どんな気持ちからだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここで自分があきらめるわけにはいかない。</li> <li>・染織講習所を建て新しい技術を取り入れなかつたら伊勢崎銘仙は取り残されてしまう。</li> <li>・なんとしても伊勢崎を日本一の織物の町にしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊勢崎銘仙についての理解を補足する資料やや上毛かるたの絵札（ワークシートにも記載）をプロジェクターで映し、資料への関心をもたせる。</li> <li>・弥一郎の行動から、伊勢崎銘仙を守ろうとする弥一郎の気持ちに気付かせる。</li> <li>・仲間の支援が得られない中でもあきらめずに努力し続けた弥一郎の気持ちに共感させることで、目標に向かって努力することの大切さに気付かせる。</li> <li>・意図的な指名により、全体の中で意見を出し合うことで、弥一郎のあきらめない気持ちを考えさせる。</li> </ul>
展開後段 (見つめる)	<p>○今までの自分を振り返り、課題に対する解決策を考える。</p> <p><b>【人間理解】</b></p> <p><b>【他者理解】</b></p>	20	<p>○より高い目標を達成するために、どう考え、どのように行動すればよいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く継続することが大切なので、弥一郎さんのように目標に向かって努力していきたい。</li> <li>・少しくらいつらいことがあってもくじけずに、目標の達成のためにあきらめずに頑張っていきたい。</li> <li>・たとえみんなに反対されても、自分の思いを大切にして、自分が正しいと思うことをやり抜くようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの自分を振り返り、これから自分はどう考え、どう生きていきたいか、自分なりの考えをワークシートに記入させる。</li> <li>・机間指導によって、考えが思いつかない生徒には、勉強や部活動など具体的な場面を提示して、考えさせる。</li> <li>・3～4人のグループになって意見交換することで本時の課題に対する考え方を深めさせ、課題に対する自分なりの答えをまとめさせる。</li> <li>・本時の課題について全体で交流し、目標を達成するための様々な思いや行動について理解を深めさせる。</li> </ul>
終末	○教師の説話を聞く。	6	○「わたしたちの道徳」P18のマンガの吹き出しに入る言葉	・画像をプロジェクターで映すことと、漫画のストーリーを想

		を考えてみましょう。 ○今日の授業の感想をまとめ る。	起できるようにする。 ・吹き出しに言葉を入れさせ、 補足する形で努力することの難 しさやその貴さに気付けるよう な話をする。
--	--	-----------------------------------	--

道徳ワークシート 2年A組 名前\_\_\_\_\_

今日の課題

**より高い目標を達成するために、どのように考え  
どう行動していけばよいでしょうか。**

今日の課題について [ ] に学ぼう

①化学染料を使ったことで伊勢崎銘仙の評判がわるくなった時、弥一郎はどんな思いで染  
織法を草木染めに統一したのだろうか。

[ ]

②仲間に理解してもらえないでも染織講習所の設立をあきらめなかつたのは、弥一郎がどんな想  
いをもっていたからでしょうか。

[ ]

③今日の課題について、自分の考えをもとう

「より高い目標を達成するために、どのように考えどう行動していけばよいでしょうか。」

友達の考え方

①.....

②.....

③.....

今日の授業を通して、思ったこと・考えたこと

[ ]

図2 本時で使用したワークシート

### (3) 板書計画

**今日の課題**

**より高い目標を達成するために、どのように考え  
どう行動していけばよいでしょうか。**

- ねばり強く継続することを大切と考え、目標に向かって努力を怠らない。
- つらいことに簡単に負けない心を大切に思い、毎日がんばっていく。
- 自分の考え方や思いを大切にして、自分が正しいと思うことをやり抜く。

**下城弥一郎に学ぶ**





板書計画

今までの自分

- ◎中間テストの学習計画が全く達成できなかつた。
- ◎新人戦に向けて、家での練振りを毎日試みたが三日坊主だった。

### 7 実践のまとめ

(1) 授業の実際 (T:教師、S:生徒、G:グループ)

#### 導入

T 「今までの、人生の中で目標が達成できなくて残念な思いをした経験はありませんか。勉強や部活など身近なことを思い出してみてください。」

S1 「勝とうと思って臨んだ試合に勝てませんでした。」

S2 「時間内にサーブを100本打つ練習で、それを達成できませんでした。」

S3 「夏休みの宿題を計画的にできませんでした。」

T 「今日は、これまでうまくいかなかった経験を元に、次のような課題について考えてもらいます。今日の課題は、『より高い目標を達成するためにどのように考え、どう行動していったらいいか』です。このことについて、これから紹介する人が主人公の資料を使って考えていきます。この登場人物が誰だか知っている人はいますか?」

S4 「太宰治」

T 「では、このカルタは知っていますか?」

S全 「銘仙織り出す伊勢崎市」

T 「そうです。今日は、伊勢崎市の資料を用いて勉強していきます。」

生徒の問題意識を高めるために、目標を達成できなかつた経験を発表させた。事前アンケート

図3 資料導入の様子

中-13

トでは、中間テストでの取り組みについて記述した生徒もいたが、多くの生徒が部活動における体験の発表に偏ってしまった。そこで、事前アンケートを基に、学習面における体験を発表させるようにした。意図的指名をすることによって、ねらいとする価値への方向付けをしっかりとすることが大切である。ここで、本時のねらいについて切実感をもたせることで、課題を提示したときの必然性が生まれるわけであるが、生活ノートの記述などをもとに、より幅広く目標を達成できた経験やできなかつたときの経験も提示し、生徒に切実感をもたせることができるとよかったです。

資料の主人公は生徒の知らない人物であったが、上毛カルタを切り口とし、資料をもとに学習していくことにつなげていった。

#### 展開前段

資料を範読し、主人公の心情を考えた。

T「ではまず、弥一郎はどんな思いで染織法を草木染に統一したのでしょうか。このことについて考えてもらいます。」

ワークシートを配布

S1「いつまでも、草木染めでやっていきたいという思いがあったからだと思います。」

S2「中途半端なことをして、伊勢崎銘仙の名を傷つけたくなかつたからです。」

S3「本当の伊勢崎銘仙を、認めてもらいたかったからだと思います。」

T「弥一郎には、伊勢崎銘仙を大事にしていこうという気持ちがあったのでしょうか。その中で、仲間に理解してもらえなくとも借金をしてまで染織講習所の設立をあきらめなかつたのは、どんな気持ちからだったのでしょうか。」

S1「伊勢崎を日本一の織物の町にしたいと思ったからです。」

S2「一度決めたことは、最後までやり遂げたいと思ったからです。」

S3「伊勢崎銘仙を大きな産業に育てたいと考えたからだと思います。」

S4「今までとは違う形で、伊勢崎銘仙をもっとよいものにしていきたいと思ったからだと思います。」

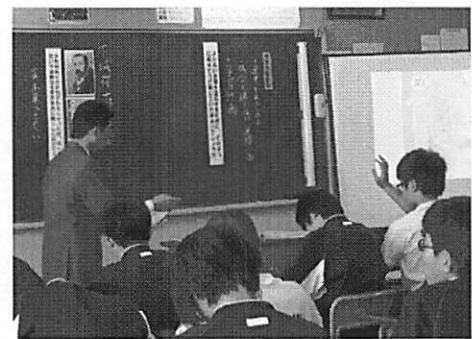


図4 主人公の心情を考える様子

展開の後段で、生徒が考える時間を確保するために、スムーズな進行が必要であるが、ここで主人公の心情をしっかりとらえないと価値の方向付けがぶれてしまう。本時では、時間をするあまり、主人公の心情の理解を十分深められなかつた。生徒の発言に対して、教師が揺さぶったり、生徒が意見や質問したりできることが理想であった。ワークシートに考えを書かせてから発表させるのではなく、教師の発問に対してどんどん答えさせてもよいと思った。

#### 展開後段

T「下城弥一郎さんはとても大きな功績を残しましたが、このように目標を達成していくためにはどのように考え、どうしていったらよいと思いますか。まず、自分の考えをワークシートに記入してください。」

3分ほど個人で考えてから4人のグループになり、自分の考えを班の人に伝える活動を5分ほど行った。考えを順番に発表し、友達がどのような考えをもつたか確認し合つた。

T「班で出し合つた意見の中で、この考えはよかつたというものがあつたら発表してください。」

G1「少しづつ成長した段階を踏んで、最終的に目標を達成できるようにする。」



図5 グループでの意見交流の様子

G2 「地道にやって、こつこつと努力していく。」

G3 「自分なりに努力して、最後まであきらめないで取り組む。」

G4 「反省を生かして、いろいろなやり方を試してみる。」

T 「このように、いろいろなアイデアがあると思います。こういったことを考えながら目標を達成するため行動していってみてください。」

資料の主人公の心情や行動をもとに、本時の課題を考えるところに移行することが難しかった。本時の課題について、自分なりの解決方法を考えさせる上で主人公の心情や行動がヒントとなるので、主発問について、しっかり考えさせる必要があった。目標を達成するために、どのように考えてどう行動していけばよいか考えさせたが、「どのように考え」の部分を強調した。考えが深まっていかない生徒は、導入での切実感や必然性を深められなかつたことが一因となっているよう感じた。

グループでの活動は、「議論する」レベルではなかったが、お互いの意見をワークシートに記入させることで、意見の交流ができた。この交流をもとに、全体の場で自分が共感した意見を発表させた。本時では、グループで出された意見を発表させて終わってしまったので、全体で課題に対する答えを練り上げていくことができれば理想的である。

#### 振り返る

T 「では最後に、プリントのイラストについて紹介したいと思います。この漫画を知っている人はいますか。」

2人が知っていた。

T 「この漫画のストーリーは、主人公が宇宙飛行士になるために努力していくものです。宇宙飛行士になるという大きな目標を達成していくのですね。このシーンは、宇宙飛行士になるための訓練をしているときに発した台詞です。どんなことをいっていると思いますか。」

S1 「自分自身」

T 「当たりです。『だいたい俺です』ということばが入ります。」

最後に、授業を振り返っての感想を書かせ、発表してもらった。

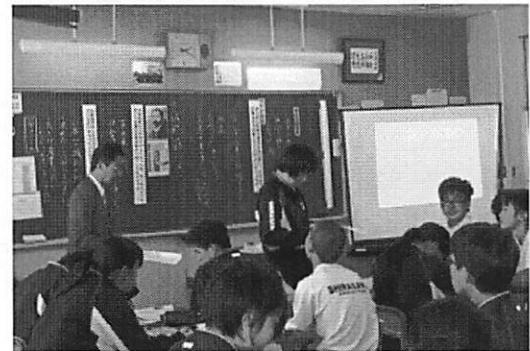


図6 本時の感想を発表する様子

終末で扱う漫画のイラストが授業で使ったプリントに記入されていたため、それが気になって仕方のない生徒が見られた。授業そっちのけで、吹き出しの言葉を考えている生徒もいた。インパクトが強すぎた終末となってしまったようである。生徒からは、目標を達成するために「自分を少しずつ成長する」「地道に行動する」「努力する」「反省を生かす」といった考えが出されたので、これらの考えを生かした本時の振り返りとなるとよかったです。

授業を終えての感想は、右の図の通りであるが、図7上の生徒は、夢をかなえるためには漠然と「頑張る」のではなく、自分自身の強い意志が必要だということに気づいている。また、図7下の生徒は、努力する対象に対する強い思い入れをもてると努力することができると言っている。このような考えをもつことが、本時の課題に対する答えであると考えられるが、こういった考えに至る生徒は多くはない。クラス全体で、このような考えに触れられるよう意見交流ができるとよかったです。

今日の授業を受けて自分の夢をかなえるために必要なのは、他人でけなく自分で自身の強い意志なんだと、うことが分かりました。これから何かかないたいことがあつたら、しっかりとやりとげるという強い意志をもつて、この会話たいと思ひます。

下城祐一郎は、自分の伊勢崎銘仙に対する思いを持ち続け、大きな夢を達成することができました。思いがあれば努力もできると思います。自分が強く願った目標に向かって努力は惜しまずに行なべきだと思ひました。

図7 振り返りの記述

## (2) 生徒の変容

授業の前後(9月と11月)においてアンケートを実施したところ、①～③のような変容が見られた。

①毎日の生活の中で、自分なりの目標をもとうとしていますか。

日常生活の中で、目標をもつたり、目標をもつよう促されたりする場面は多い。学級でも、毎学期、学習・部活・生活の面で目標を考えている。それでも、あまり目標をもとうとはしていない生徒が5名存在していた。授業後には、そのような生徒が3名になるなど、授業後の生徒の考えは、全体的に目標をもつことへの必要性を理解するようになった。「目標を達成するために」と学習課題を明確にして授業を行ったことで、目標をもって生活すること大切さを認識するようになったと考えられる。

②人の考え方を受け止めながらも、自分の意見や目標をもとうとしていますか。

実践後のアンケートでは、全員が人の考えにとらわれずに、意見や目標をもつことの必要性を感じるようになっている。問題解決的な学習過程の中で、道徳的価値に対する関心が高まり、3人いた目標をもとうとはしていない生徒が、自分なりの目標をもつことの必要性を感じるようになったと考えられる。この機会をとらえ、学校生活をはじめとする様々な場面で、意見をもつことや目標をもつことの大切さを実感

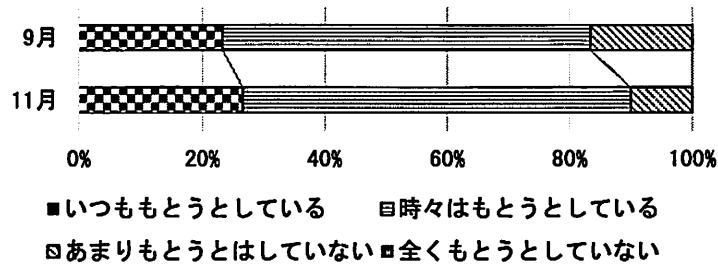
させたい。そして、学校生活の中で自分なりの意見や強い意志のもとに目標をもち努力できるよう、補充・深化・統合を意識した指導を充実していくことが大切である。

③自分でやろうと決めたこと、最後まで取り組もうとしていますか。

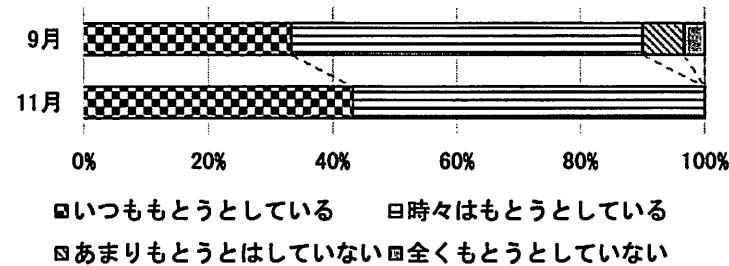
自分でやろうと決めたことに取り組もうとしない生徒が、3人から1人となつた。本時の課題を提示し、その課題について解決策を考えることで、自分でやろうと決めたことに取り組もうとする生徒も増えたと考えられる。また、資料の主人公の生き方や終末で扱った漫画の主人公の考え方も、生徒が最後まで努力することの大切さを理解することにつながったと考えられる。道徳の授業で培ったその思いを、実際の生活の中で育てていきたい。現在生

徒達は、進路について考える機会が多い。このような機会を効果的に生かし、道徳の授業を積み重ねることで、将来の夢や生き方について考え、自分の目標を実現できるよう努力できる生徒の育成につなげると考えられる。

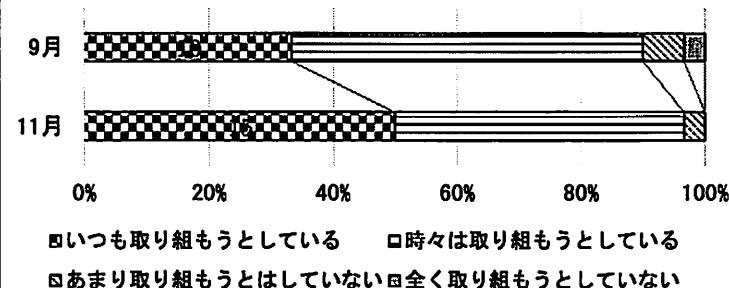
### ①毎日の生活の中で、自分なりの目標をもとうとしていますか。



### ②人の考え方を受け止めながらも、自分の意見や目標をもとうとしていますか。



### ③自分でやろうと決めたことは、最後まで取り組もうとしていますか。



## 実践例2 (内田教諭: 薄根中学校)

### 1 ねらい

自分の生活を振り返り、楽に過ごしたい気持ちに負けず、積極的に努力する生活ができるようを考えることができる。

### 2 資料名

聞く地蔵と聞かぬ地蔵 <内容項目 1—(5) 充実した生き方>

### 3 生徒の実態

本学級の生徒は、男子15名、女子20名、合計35名である。保育園から一緒に生徒がほとんどであり、穏やかで素直な生徒が多く、与えられた指示をしっかりと聞くことができる。また、意欲的に発言できる生徒が何人かいる。グループでの話し合いは全員がきちんとすることができます。

しかし、普段の生活の中で、自ら判断して積極的に行動することはあまり見られない。任せにしてしまう傾向も見られ、役割がなければ行動できないことが多い。積極的に仕事ができる生徒もいるが、その生徒たちに全て任せておこうという雰囲気が感じられる。行事などでも前向きに取り組むことができるが、自分の事を棚に上げて、人の欠点を見つけて指摘してしまうこともある。

また、右の図1はHyper-QUによるクラスの様子である。右上の学級生活満足群から左下の学級生活不満足群まで生徒の分布が広がっている。グラフの下半分にいる、クラスの半数以上の生徒は、周りからの承認も少ないと感じている、自己肯定感の少ない生徒である。これらの生徒は特に、自分から物事に取り組もうという意欲が少ないと感じる。その結果、クラス全体としても全員で団結して行動していくという意欲が感じられない。

本時の授業は「深化」を意図して構想する。生徒はこれまで、学校行事や部活動を体験し、集団の中で努力することの大切さを学んできている。しかし、個に振り返ってその体験を生かそうとしている生徒は多くない。そこで、本時の授業を通して、普段の生活の中でも、一人一人が高い目標を目指して努力を続け、充実した生活が送れるように考えさせたい。

### 4 資料について

ある村を訪れた老僧が2つの地蔵を作る。1つは何でも願いを叶える地蔵。もう1つは願いを叶えない地蔵。村人は願いを叶える地蔵に願いを叶えてもらい、一時幸せになった。しかし、一番になりたいという欲望が出てしまい、他人を不幸にする願いをするようになった。その結果、村は以前より荒れ果ててしまった。その時、再び老僧が現れ、願いを叶えない地蔵にお参りするよう話をする。村人は、願いを叶えない地蔵をただ拝み、一生懸命働いた結果、村は平和なよい村になった。

簡単に願いが叶う状況では、人はさらなる欲望につぶされてしまう。願いを叶えるために自己を向上させる努力を重ねることで、自分の欲望も抑えることができ、願いを叶えた時も充実感や達成感が得られる。普段から向上心をもって生活することの大切さに気づかせていきたい。

### 5 道徳的価値の自覚を深める指導の工夫

#### (1) 道徳的価値についての理解のために

- ・物語を前半と後半に分けて読み進めることで、村人がどのようになるのか予想させながら自分の考えをもたせていく。
- ・後半部分については、お互いの意見を聞きあい、よいところを認めあえるよう班での話し合い活動を取り入れていく。

#### (2) 生徒自身のかかわりの中で道徳的価値を捉えるために

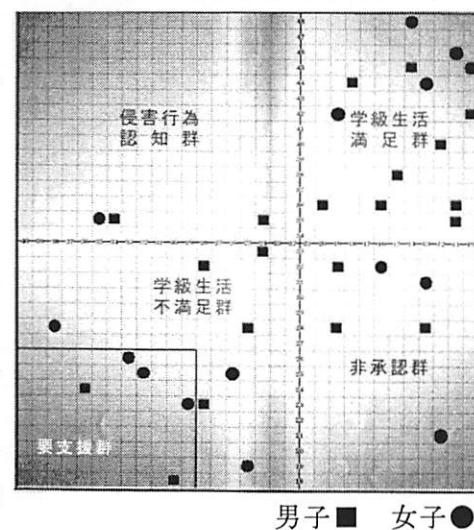


図1 学級満足度 (Hyper-QU)

- ・部活動の新人戦や運動会、合唱コンクールなどを通して、努力することの大切さを体験することができていると思うが、日常の生活の中でも、さらに深く意識できるようにしたい。そこで、問題解決型の学習展開を行うことで、自分自身の考えをはっきり持てるようにする。

**【問題文】 本当に充実した生活とはどのようなものだろう。**

- ・ワークシートを使ってまず、一人一人の考えを書けるようにする。その後、班での話し合いを行うことで、より考えを深めていけるようにする。
- (3) 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うために
- ・振り返りの時間の中で、自分のこれまでの行動を振り返り、普段の生活の中でも、自分を向上させるための努力ができるようにしていきたい。

## 6 本時の学習

### (1) 準備

ワークシート、聞く地蔵と聞かぬ地蔵の本文

### (2) 展開

段階	学習活動	時間	主な発問（予想される生徒の反応）	支援及び指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活を振り返り、本時の道徳的価値について考える。 【価値の方向付け】</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会や部活動で、目標を達成できなかったことはありますか。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習（計画）通りにできなかった。</li> <li>・部活動で勝てなかった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ここでは良い結果が出ず嫌な思いをしたことを振り返る。</li> </ul>
			<b>【課題】 本当に充実した生活とはどのようなものだろう。</b>	
展開前段（高める）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料前半を聞いて、内容を把握する。</li> <li>○村人がどのようになるのか自分の考えをまとめること。</li> <li>○資料の続きを読み次の発問について考え方をまとめること。 【価値理解】</li> </ul>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これから先、この村はどうなると思いますか。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・願いが叶って幸せになる。</li> <li>・村が良くなり発展する。</li> <li>・あとで何か嫌なことが起こりそう。</li> <li>・願いが簡単に叶う見返りで、落とし穴のようなものがあるかも。</li> </ul> </li> <li>○村人は何に気がつけば不幸にならずにすんだのでしょうか。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・他人の不幸を願わなければよかつた。</li> <li>・欲張りな気持ちがなければよかつた。</li> <li>・幸せは願うだけでなく自分の力で手に入れていくもの。</li> <li>・自分で願いが叶うよう一生懸命に努力すること。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師が資料前半まで範読する。</li> <li>○全文を渡し、考えさせる。</li> <li>○願いを叶える地蔵が無くても村人は幸せになれることを確認する。</li> </ul>

展開後段 （見つめる）	○主発問について、個別で考え、班で意見をまとめる。  <b>【他者理解】</b> <b>【人間理解】</b>	1 5	○本当に充実した生活をするためには、どのようにしたらいいでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽して良い結果をつかもうとするのではなく、自分の力で結果を出そうとする。</li> <li>・自分の弱い気持ちに負けず、努力で生きないようにする</li> <li>・目標に向かって、毎日頑張ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの自分の行動を振り返り、考えを書けるようにする。失敗談だけでなく、成功体験も想起させたい。</li> <li>・グループリーダーが進行し、スムーズに話し合いができるようにする。</li> </ul>
振り返る	○私たちの道徳 P44 の詩を聞く。 ○授業の感想をまとめる。	1 0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの目標を見つけて、努力を続けることが、充実した生活に繋がることと分かった。</li> <li>・自分はすぐにあきらめたりするので、目標に向かって努力して充実した毎日を送りたい。</li> <li>・他力本願で自分の願いが簡単に叶うこととは、実は不幸なことだと分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数人に発表させて感じたことを共有させ価値理解を深める。</li> </ul>

聞く地蔵と聞かぬ地蔵	名前	組番
------------	----	----

◎今日の課題

これから先、この村はどうなると思いますか?

(村人は何に気づけば不幸にならずにすんだのでしょうか) ※後で記入

本当に充実した生活をするためには、どのようにしたらいいでしょうか?  
・自分の考え

この授業を通して、思ったこと、考えたこと



図2 本時で使用したワークシート

(3) 板書計画

板書計画	目標を達成できなかつた事 ○練習通りできなかつた ○部活動で勝てなかつた くやしい・残念・嫌だ ←
今日の課題	本当に充実した生活とはどのようなものだろう
	この村はどうなるだろう ○願いが叶って幸せになる ○あとで何か嫌なことが起こりそう
	村人は何に気がつけばよかつたのだろう ○自分で願いが叶うよう努力すること ○欲張りな気持ちがなければよかつた ○幸せは自分の力で手に入れていくこと
本当に充実した生活をするために 3 2 1 自分の力で目標を達成させる 弱い気持ちに負けず努力する 自分たちがやるべき事をしつかりする	

## 7 実践のまとめ (T : 教師、 S : 生徒、 G : グループ)

### (1) 授業の実際

#### 導入

T 「目標が達成できなかった時はどのような気持ちになりますか。」

S 1 「くやしい。」

S 2 「悲しくなる。」

T 「目標が達成できないと、こういった気持ちになるけど、毎日の生活で目標を達成し続ける方がいいのかな。どんな生活をしたら充実した生活ができるのかを今日は考えていきましょう。」

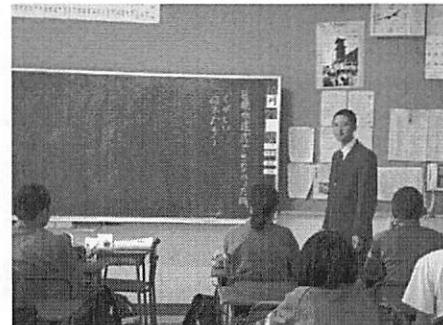


図3 授業の様子

生徒の日常生活に関連づけるため、目標が達成できなかった時の気持ちを聞いた。事前アンケートでは、部活でのことや、学校行事でのこと、授業の中でのことなどいろいろな場面があったので、それらを紹介しつつ、その時の気持ちを考えさせることで、本時のねらいを自分の事として捉えることができると考える。図3のような形態で、数人の意見を取り上げて紹介する形にしたが、生徒が自分の体験を話すようにした方がより具体的になってよかつたかもしれない。

#### 展開前段

T 「村人は何に気がつけば不幸にならずにすんだのかな。」

S 1 「地蔵に頼るのではなく。」

S 2 「努力をしてから、自分の思いを実現させればいい。」

S 3 「思い通りになるばかりではなく。」

T 「どうして努力したりすることが必要なのかな。」

S 4 「努力した方が、目標を達成できたときの達成感があるから。」

T 「なるほどね。村人達も楽をして地蔵に頼るのではなく、しっかり努力する生活ができれば、不幸にならなかつたし、もっといい生活ができたのかもしれないね。」

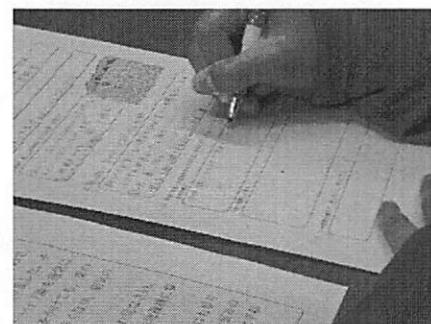


図4 生徒が記述している様子

何でも願いが叶ってしまった結果、不幸になった村人の失敗を考えさせることで、願いを叶えるまでの過程の大切さに気づけるよう発問した。生徒達も、大事なのは結果ではなく、自分で努力することであることに気づき、図4のように考えをまとめることができていた。また、なぜ努力した方がいいのかを切り返しの発問で聞いた所、努力をして願いを叶えた方が達成感が得られることにも気づくことができた。不幸にならないだけでなく、よりよい生活をするためにはどうしたらよいのかということに気がつけたところで、後段につなげることができた。

#### 展開後段

T 「本当に充実した生活をするためには、どんな生活をしたらいいのでしょうか。」

G 1 「自分から努力し、行動する。」

G 2 「常に自分なりの目標をもって努力する。」

G 3 「他人に頼らず自分で努力して目標を達成させる。」

T 「みんな、自分で努力するということを書いてくれましたね。でも授業の最初にも聞いたように、努力しても目標が達成できないときもあるよね。そういうときの生活って充実した生活にならないのかな。」

S 1 「うまいかなかつことを反省して、次に生かせば無駄にならないからいい生活になる。」

S 2 「努力したことは、自分の力になるから、結果が出なくても充実した生活になる。」

T 「そうだね。結果が出なくても充実した生活はできるんだね。」

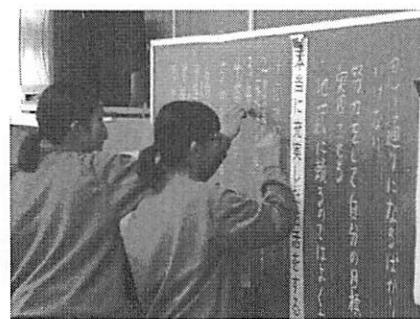


図5 生徒の様子

本時の主発問に向けての解決策を、個人で考えさせた後、班で相談させて、図5のように板書させた。どの班も「自分で努力をする」ことを意識して意見をまとめることができたが、やや内容が薄くなってしまった。現実では、分かっていてもできないことがあるので、その状況についても触れられるとよかったです。実際、班で話し合いをしている時には、できない時の話もでていたようである。そういう意見を取り上げて議論させることでより考えを深めることができたと思った。また、これまでの体験を根拠にして考えをまとめさせることでも、考えを深められると思う。

#### 振り返る

T 「今日の授業を通して、分かったこと感じたことをまとめていきましょう。」

S 1 「自分の目標を達成するために努力することが大切だと分かりました。」

S 2 「これからいろいろなものに向き合って努力し、充実した生活が送れるようにしたいです。」

S 3 「これまで部活で達成できなかった目標がたくさんあったけど母はいつも努力できればそれでいいと言ってくれました。今日その意味が分かりました。」

T 「みんないいまとめができているね。これからの生活で充実した生活ができるように努力していくといいね。」



図6 振り返りの様子

多くの生徒が、下の図7のように努力することの大切さを中心にまとめることができた。しかし、考え方の根拠がなく、内容的には表面的なものになってしまっていた。授業中発表したS 3の生徒は実体験を元に意見をまとめることができていた。自分の事としてこの授業のねらいを考えることができた意見だと考える。今後はこのような意見を増やしていくような授業展開の工夫が必要であると感じた。

本当に頑張生活に向けて、常に目標を持つ、その目標を人に頼らず、自分で努力していきたいと思いました。

今日の授業で人に頼る事ではなくて自分で目標をもって努力する事が  
大切なのだと思いました。私も自己から進んで一所懸命頑張って  
努力していくと思いました。

図7 振り返りの記述

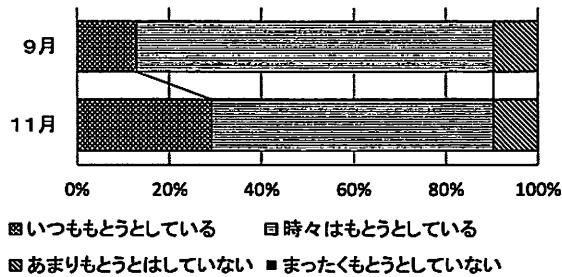
## (2) 生徒の変容

授業の前後（9月と11月）において、アンケートを実施したところ、①～③のような変容が見られた。

①毎日の生活の中で、自分なりの目標をもとうとしていますか。

実践を行った2学期は、行事も多く、自分なりに目標をもって生活することが大事な期間である。多くの生徒が目標をもとうと考えている中、「いつも目標をもとうとしている」という生徒の割合がかなり増加していた。充実した生活をするためには、目標に向けて積極的に努力することが必要であるという本時の授業のねらいが、達成されているものと思われる。

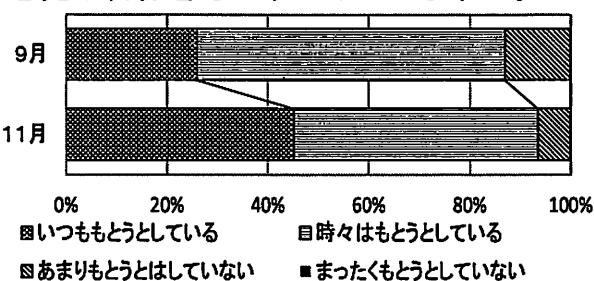
①毎日の生活の中で、自分なりの目標をもとうとしていますか。



②人の考え方を受け止めながらも、自分の意見や目標をもとうとしていますか。

中学校生活では、いろいろな場面で自己決定を迫られることがある。周りの様子をうかがい、友達に同調するだけでは、本当に充実した生活をすることができなくなる。今回のアンケート結果では、全体的に考え方方が改善され、いつも自分の意見や目標をもとうとしている生徒が半数近くまで増加していた。自分で考え、行動することが引き続きできるようにしていきたい。

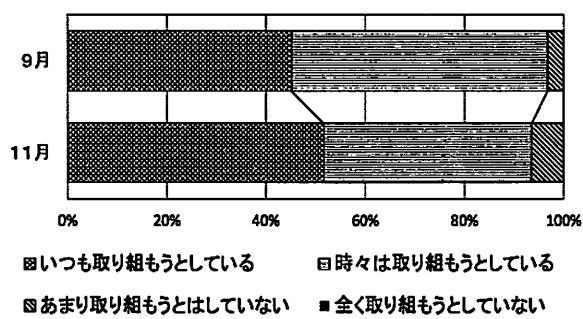
②人の考え方を受け止めながらも、自分の意見や目標をもとうとしていますか。



③自分でやろうと決めたことは、最後まで取り組もうとしていますか。

「いつも取り組もうとしている」としている生徒の割合も増えたが、「あまり取り組もうとしていない」生徒の割合も増えていた。目標を決め、最後までやり抜こうと努力できる生徒もいるが、途中であきらめてしまう生徒もいることが分かった。いろいろな体験の中で、うまくいかず、自信をもてなかつた場面があったのかもしれないで、努力してきたことにより注目させて、最後までやり抜く気持ちを高めていきたい。

③自分でやろうと決めたことは、最後まで取り組もうとしていますか。



### 実践例3（亀井教諭：多那中学校）

#### 1 ねらい

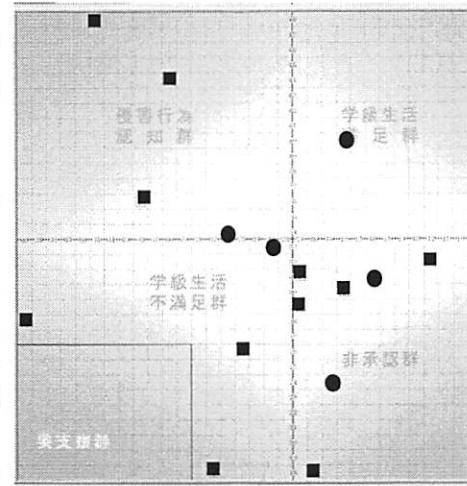
自ら考え、判断し、誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。

#### 2 資料名 金語楼さんのこと（中学道徳2 明日をひらく 東京書籍） <内容項目 1—(3) 自主自律、誠実と責任>

#### 3 生徒の実態

本学級の生徒は、男子9名、女子5名、計14名の学級である。与えられた質問や課題に対して自分の考えをもつことはできるものの、それらを進んで伝えたり、共有したり、さらによい考え方を持とうとしたりするなどの前向きな姿勢をもっている生徒は少数派である。また、自ら考え、判断して行動すること、他の生徒やクラスに対して責任ある行動をとろうとする姿勢がなかなか見られない学級である。

右の図は、Hyper-QUによるクラスの様子を表したものである。学級生活に満足している生徒は一人であり、他の生徒は学校での生活に不満があったり、クラス内で認められていなかったりする生徒が半数以上を占めている。これは、今まで進んで物事に取り組んだり、自分の役割や仕事に責任をもって取り組んだりし、周りからそれを認められたり賞賛されたりすることが少なかったことが理由として考えられる。また、事前の生活アンケートにおける「今までに、責任をもって行動したり、取り組んだりしたことありますか」という質問に対する回答では、7人の生徒が「ない」と答えており、理由としては「失敗したときの責任を負いたくないから」や「そのような機会がない」などの理由が挙がった。



本時の授業は「深化」を意図して構想する。生徒はこれまでに、授業や学校の諸行事の中で自分から進んで物事に取り組むことや、責任を持って物事に取り組むことの大切さについて学ぶ機会や意識する場面はたくさんあった。しかし、それらの経験などをもとにじっくりと話し合ったり振り返ったりすることは十分とは言えない。そこで、道徳の授業において、主人公の心情を読み取り、進んで物事に取り組み、自分の行動に責任をもつことの大切さや、どのように考えどう行動していくことが必要なのかを考えさせたい。

#### 4 資料について

金語楼さんは、誠実であろうとする努力を怠らない。自分に厳しく、人と人との相互信頼を大切にしている。お互いの信頼を大事にすることこそ自分を大切にし、相手をも尊重することだという誠実な生き方を深く感じ取れるようにしたい。

#### 5 道徳的価値の自覚を深める指導の工夫

##### (1) 道徳的価値についての理解のために

- ・資料の読み取りをしやすくするために、資料に登場する金語楼さんについて紹介できるよう、具体物を用意しておく。
- ・主人公の置かれている状況を押さえ、主人公の心情を理解し、共感しながら自分の考えをまとめしていくために、意図的な指名により生徒の意見をまとめていく。

- (2) 生徒自身のかかわりの中で道徳的価値を捉えるために  
 ・本時の問題文を状況、心情、行動の観点から具体的に短い文章で提示する。問題解決的な学習展開とすることで、生徒一人一人が道徳的価値についての興味や関心を呼び起こせるようとする。

**【問題文】**

責任をもつとはどのような考え方をもってどう行動することだろうか。

- ・ワークシートへの記載や机間指導によって、生徒一人一人に自分の考えをもたせる。その後、近くの生徒同士で意見交換することで、本時の課題に対する考えを深める。

- (3) 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うために  
 ・授業の終末で、責任を持つことについて考えさせ、自分が今後どう生活していきたいか考えさせる。

## 6 本時の学習

### (1) 準備

明日をひらく、ワークシート、金語楼さんの人となりが分かる資料

### (2) 展開

段階	学習活動	時間	主な発問（予想される生徒の反応）	支援及び指導上の留意点
導入	○日常生活について振り返り、本時の道徳的価値について考える。 <b>【価値の方向付け】</b>	5	○今までに責任をもって行動したり、取り組んだりしたことがありますか。 ・ある（自分の係の仕事などをしっかりとする）。 ・ない（失敗したときの責任を負いたくない）。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><b>【課題】</b> 責任をもつとはどのような考え方をもってどう行動することだろうか。</p>	・生徒からの答えや意見を聞き、その後、事前の生活アンケートの回答を伝える。それを受け、「どういう思いで責任をもって取り組んだのか」「責任をもたずに行動していくいいのか」「責任とは何なのか」を本時で考えていくことを伝える。
展開前段（高める）	○金語楼さんについての説明を聞く。  ○資料を読んで、内容を把握する。 ○金語楼さんの人間的魅力について考える。	2 5 6	○金語楼さんのすばらしいところは、どんなところだろう。 ・自分のからだのことより、お年寄りの慰問を大切に考えている。 ・体のぐあいが悪くても、それを人に見せない。 ・「無料の出演だからといって取りやめはできない」と言い、お互いの信頼を大切にし	・落語家として信念を持って生きている金語楼さんの人となりを説明する。  ・資料の具体的な場面や会話から、誠実に生きる金語楼さんの人間的魅力について、共感できるようにする。

	○本時の道徳的価値について考える。 【価値理解】	7	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に対しても世の中の人に対しても、誠実に生きている。</li> <li>・「私は未熟な役者、死ぬまで修行」と言って、謙虚に生きている。</li> </ul> <p>○金語楼さんはどういう考え方から、「無料出演だからといって取りやめはできない」と言ったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金をもらうから仕事の責任を果たすのではなく、むしろもらわない仕事だからこそ、信頼を大切にしたいと考えた。</li> <li>・自分のことを楽しみにしてくれている人たちの気持ちを裏切りたくないと思った。</li> <li>・一度約束をしたことを自分の都合で断ることはしたくないと考えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料出演だからこそ、休むわけにはいかないという金語楼さんの考えをおさえることで、本時の価値理解に迫るようにする。</li> </ul>
展開後段（見つめる）	○課題に対する解決策を考える。 【人間理解】 【他者理解】	15	<p>○責任をもつとはどのような考えをもってどう行動することだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のことを考え、どのような状況でも、自分のやるべきことをしようとしてすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近くの生徒同士で意見交流させる前に、アンケートの回答にも振り返らせ、本時の価値に対する内面化を図り、考えを深める。</li> <li>・ペアで考えたことをホワイトボードに記入させ、黒板に貼ることで全体で共有を図る。</li> </ul>
終末	○私たちの道徳 P22 の文章を読む。 ○本時の感想を書く。	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで他人のことを考えて行動したりすることがあまりなかったので、自分のやるべきことに責任をもって取り組み、周りの人に迷惑をかけないようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の行動を振り返り、今後のことを考えさせる。</li> <li>・数名の生徒に発表させることにより、生徒の多様な考え方を共有させ、実践への思いをふくらませられるようにする。</li> </ul>

◎今日の課題

○「金語樓さんのこと」を読んで考えよう。

1 金語樓さんのすばらしいところは、どんなところだろう。

2 金語樓さんは、どういう考え方から「無料出演だからといって取りやめはできない」と言ったのだろう。

3 責任をもつとはどのような考え方をもってどう行動することだろうか。

<自分の考え方>

<ペアでの考え方>

<他のペアの考え方>

4 この授業を通して思ったことや考えたことを、今までの自分を振り返って書きましょう。

図2 本時で使用したワークシート

### 板書計画

※導入時の生活アンケートの結果は、パワーポイントを使って電子黒板に写す予定。

### 今日の課題

責任をもつとはどのような考え方をもつてどう行動することだろうか。

「金語楼さんのこと」



金語楼さんのすばらしいところは、どんなところだろう。

○自分のからだのことより、お年寄りの慰問を大切に考えている。

○体のぐあいが悪くても、それを人に見せない。

○「無料の出演だからといって取りやめはできない」と言い、お互いの信頼を大切にして

いる。

○自分に対しても世の中の人に対しても、誠実に生きている。

○「私は未熟な役者、死ぬまで修行」と言つて、謙虚に生きている。

金語楼さんはどういう考え方から、「無料出演だからといって取りやめはできない」と言つ

たのだろうか。

○お金をもらいうから仕事の責任を果たすのではなく、むしろもらわない仕事だからこそ、信頼を大切にしたいと考えた。

○自分のことを楽しみにしてくれている人たちの気持ちを裏切りたくないと思った。

○一度約束をしたことを自分の都合で断ることはしたくないと考えた。

責任をもつとはどのような考え方をもつてどう行動することだろうか。  
○相手のことを考え、どのような状況でも、自分のやるべきことをしようとすること。

### (3) 板書計画

ペアで考えた意見をホワイトボード書かせ、貼らせる。

## 7 実践のまとめ

### (1) 授業の実際 (T:教師、S:生徒、P:ペア)

#### 導入

T 「今までに、責任をもって行動したり、何かに取り組んだりしたことがありますか。あると言う人は、どんなことをしたか教えてください。」

S 1 「自分の係の仕事をしっかりとやりました。」

S 2 「学校の代表として、発表をしました。」

T 「逆に取り組んだりしたことがないという人は、その理由を教えてください。」

S 1 「失敗をしたときに、責任を負いたくないから。」

S 2 「責任をもって行動するというのが、どういうことなのか分からず。」

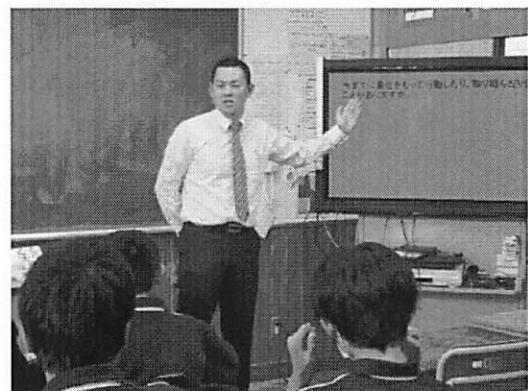


図3 導入の様子

T 「実は、同じ質問を少し前にしたんですが、覚えてますか。ここに写されているように、みんなの回答のいくつかをまとめてみました。いろいろな取り組みや、取り組んだことがない理由がありますが、責任をもって何かに取り組んだことがあるという人は、どういう思いでそのように行動したのでしょうか。また、責任をもって何かに取り組んだことがないこの理由もいくつかあります。が、果たしてそれでいいのでしょうか? また、そもそも責任とは何なんでしょうか。というわけで、今日はこのことについて考えていくこうと思います。(課題を黒板に提示する。)

事前にとったアンケートをもとに話を進めることで、生徒の実態に照らし合わせながら、責任について考えることの必然性をもたせる導入ができた。生徒とのやりとりをもう少し削り、後の展開に時間を残すこともできたかもしれない。

#### 展開前段

金語楼さんの人となりを説明した後、資料を範読し、主人公の心情を考えた。

T 「金語楼さんのすばらしいところは、どんなところでしようか。」

S 1 「熱があったのに、仕事をやりとげた。」

S 2 「信頼してもらうために、自分のことよりも相手のことを考えている。」

S 3 「自分を待っていてくれている人たちのことを最優先に考えている。」

T 「金語楼さんは、どういう考え方から、「無料出演だからといって取りやめはできない」と言ったのでしょうか。」

S 1 「仕事は仕事という考え方。」

S 2 「老人たちが楽しみにしている。」

S 3 「老人たちが待っていてくれている。」

S 4 「信頼関係を大切にしたい。」

S 5 「自分の都合で、期待を裏切れない。」



図4 展開前段の様子

展開後段で十分な話し合いができるよう、なるべく時間をかけずに主人公の心情を捉えさせるよう意識しながら授業を進めた。必要最小限の時間で、十分に本時の価値理解に迫ることができたと思われる。

#### 展開後段

T 「これまで金語楼さんの行動についていろいろな意見を聞いてきましたが、ここでもう一度、最初の課題に戻ります。最初のアンケート結果も踏まえて、責任をもつとはどのような考え方をもって、どう行動することでしょうか。まずは各自で考え、ワークシートに記入してください。その後、ペアになって二人の考えをホワイトボードにまとめてもらいます。一つにまとまらないな、という場合は、無理にまとめる必要はありません。二人の意見を書いておいてください。」

P 1 「自分がやるべきことを、最後までやりとげる。」

「失敗を何とかする。」

P 2 「第一に相手のことを考え、迷惑や心配をかけないように行動する。」「自分で考え行動する。」

P 3 「相手のことを考えて行動する。」「最後までやりぬく。」

P 4 「自信をもつ。」「相手の事を考える。」

P 5 「これをやらないとやばいという危機感を持ち、最後までやりとげる。」

P 6 「一つの物事をやりぬく力をもち、自信をもって行動すること。」

P 7 「自分のメリットや都合だけで行動するのではなく、待っている人や他の周りの事を最優先にして、最後までその仕事をやりきること。」「恥ずかしくない行動をする」

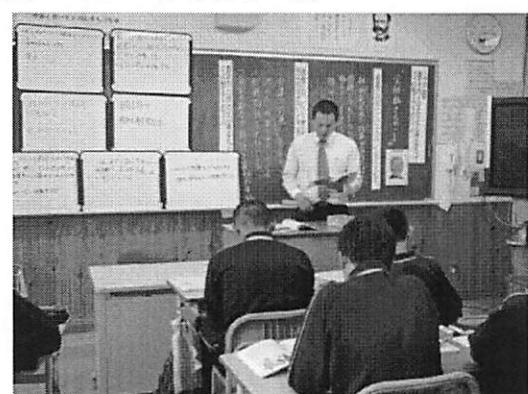


図5 展開後段の様子

事前のアンケート結果や金語樓さんの心情の読み取りを通して、本時の価値に対して考えを深めることができた。また、全員がそれぞれの生徒の考えを共有化することができた。

### 振り返る

最後に、私たちの道徳の一説を読み、授業を振り返っての感想を書かせ、発表してもらった。

S 1 「「責任をもつ」という考えが少し甘かったと思いました。これからは自分に自信をもち、他の人を優先に考えられる人になりたいです。」

S 2 「自分は何かしようとしても、ほとんど途中で諦めてしまうけど、やりぬくことが大切だと改めて知った。」

S 3 「自分は責任を持って行動していることが少ないので、これからはいろいろな事に責任をもつて生活していきたいと思いました。」

S 3の生徒と同じような趣旨の感想が全体のおよそ3分の1を占めた。S 1、S 2の生徒(図6、7)のように、これまでの自分を具体的に振り返った上での感想を書いた生徒もおよそ3分の1であり、他の生徒は、それぞれ学んだことを感想に書いていた(「責任とは何なのか分かった」、「自信をもって行動することが大切だと分かった」など)。

「責任をもつ」という考えが少し甘かったと思いました。  
これからは自分に自信をもち、他の人を優先に考えられる人になりたいです。

自分は何かしようとしないと、途中で諦めてしまう。  
ややかにやがては」と改めて思った。

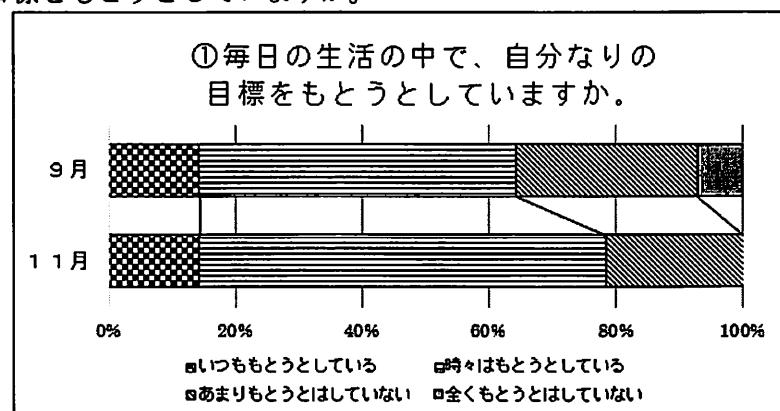
図6 振り返りの記述

### (2) 生徒の変容

授業の前後(9月と11月)において、アンケートを実施したところ、①～③のような変容が見られた。

①毎日の生活の中で、自分なりの目標をもとうとしていますか。

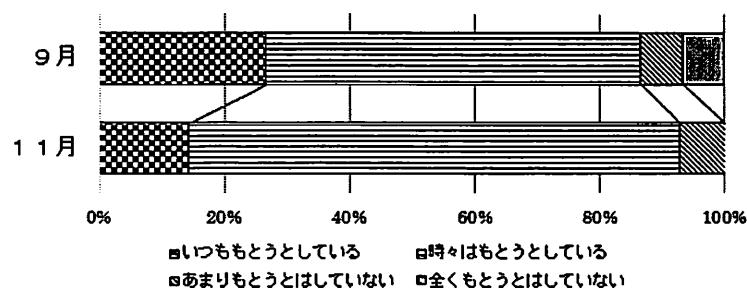
日常生活の中で目標をもって生活をしようとする生徒の数が、クラス全体の約6割から8割に増えた。「自分のやるべきことを最後までやりきる」ということが責任を果たすことにつながるということを理解し、何かに向かって進んで取り組もうとする姿勢が現れてきたものと考えられる。



②人の考え方を受け止めながらも、自分の意見や目標をもとうとしていますか。

人の考え方を受け止めながらも、自分の意見や目標をもとうとしているという生徒の割合は、実践の前後で変化がなく、ほとんどの生徒がその大切さを理解しているものと思われる。今後、様々な学校行事や学習活動、学校内外での活動などを通して、自分の目標をもち、それを達成させようと進んで行動する姿勢を養っていきたい。

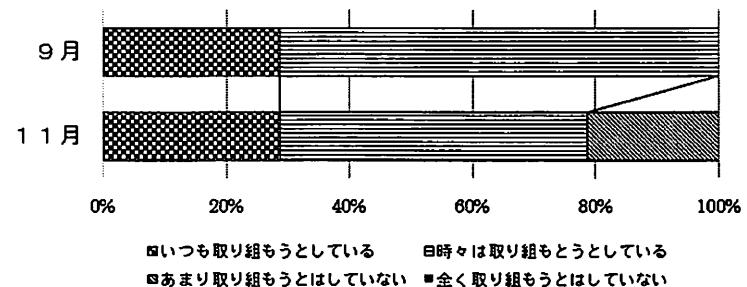
②人の考え方を受け止めながらも、自分の意見や目標をもとうとしていますか。



③自分でやろうと決めたことは、最後まで取り組もうとしていますか。

自分でやろうと決めたことに最後まで取り組もうと思えない生徒が出てきた背景には、そうした気持ちはもっているが、現実的には最後まで取り組むのが難しいと感じる場面があったことが考えられる（今回の場合、期末テストに向けての学習など）。自分が決めた目標に向け、たとえそれが達成できないと思っていても最後まで取り組むということは、生徒にとって難しいことであるかもしれない。今後、学校生活の様々な場面で、目標を決め、それに向けて取り組むということを継続しつつ、その成果を感じさせられるような指導をしていきたい。

③自分でやろうと決めたことは、最後まで取り組もうとしていますか。



## VI 成果と課題

### ○成果

各実践を通して、自分なりに目標をもって努力しようとする生徒の意識の高まりを見取ることができた。これは、問題解決的な学習過程を取り入れたことによって、以下のような成果が認められたものと考えられる。

- ・授業の前に本時に関わるアンケートを実施して、生徒の道徳的価値観やその裏付けとなる体験などをもとに導入することで、授業に意欲的に取り組むことができた。
- ・問題解決的な発問により、本時でねらいとする道徳的価値について関心を高め、主体的な取り組みを促すことができた。
- ・本時で追求する道徳的価値が明示されているので、めあてを明確にして資料の読み取りや話し合い活動に取り組むことができた。
- ・本時の課題に対して、資料をもとに自分自身の行動を振り返ったり、仲間同士で意見交流したりすることで、本時のねらいを達成するための解決策を考えることができた。
- ・自分の考えを書いたり話し合ったりする場面が活性化し、表現する活動や考えを深める活動が充実した。

### ○課題

- ・展開の場面では、主人公の心情の読み取りと解決策を考える活動があり、時間の扱いが難しい。ねらいによっては、前半を道徳の時間としてねらいの追求を行い、後半を具体的な解決場面として特別活動や総合的な学習の時間として設定するなどの工夫も必要である。
- ・課題に対して、その答えを表面的に考えさせてしまい、多様に心を動かすことができないこともあった。教師からの問い合わせや生徒同士の話し合い活動をより活性化し、生徒の心を動かし、道徳的価値について多面的多角的なとらえ方をさせるような工夫が必要である。
- ・授業を通して高めた実践意欲や態度が、適切な行為を主体的に選択することにつながっていくよう別葉の見直しを図るなど、各教科、特別活動等との関連をより一層意識した教育活動を展開する必要がある。

### <参考文献>

- 中学校学習指導要領解説 総則編 (平成20年9月 文部科学省)  
中学校学習指導要領解説 道徳編 (平成20年9月 文部科学省)  
中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 (平成27年7月 文部科学省)  
はばたく群馬の指導プラン (平成24年3月 群馬県教育委員会)  
はばたく群馬の指導プラン 実践の手引き (平成26年3月 群馬県教育委員会)  
言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】 (平成23年5月 文部科学省)  
「問題解決学習」と心理学的「体験学習」による新しい道徳授業  
(平成27年6月 諸富祥彦 図書文化社)

### 問題解決型の道徳授業の理論と実践

- (平成12年 柳沼良太・竹井秀文 岐阜大学教育学部研究報告)  
問題解決的な学習を導入した道徳授業～多様で効果的な指導と評価の在り方～  
(平成27年7月 岐阜大学大学院 柳沼良太)